

令和4（2022）年度 長岡大学シラバス

授業科目名 科目コード	会計学1 (Accounting 1) 2037323-117					担当教員	中村 大輔 (ナカムラ ダイスケ)		
科目区分	専門科目	必修・ 選択区分	選択	単位 数	2	配当年次	2年次	開講期	前期
科目特性	知識定着・確認型AL/資格対応科目								

① 授業のねらい・概要									
<p>会計とは、特定組織の経済活動について貨幣額を用いて記録・計算し、その結果を報告するシステムである。本講義ではそのなかでも企業が株主や債権者等に向けて報告をすることを目的とする財務会計分野を扱う。会計と簿記は理論的側面と技術的側面で表裏一体のものであるが、会計学1・2では、理論的側面に絞って学んでいく。</p> <p>会計学1では財務会計のシステムと基本原則を学んだ後、企業の資金調達から財務諸表の作成と公開までの基本的な流れを中心に学ぶ。国税専門官試験の「会計学」にも対応する科目である。</p>									
② ディプロマ・ポリシーとの関連									
職業人として通用する能力/専門的知識・技能を活用する能力を養う									
③ 授業の進め方・指示事項									
スライド資料等は Google Classroom を通じて配布する。有価証券報告書等を閲覧するためにタブレットやPCの持ち込みを推奨する。									
④ 関連科目・履修しておくべき科目									
「会計学2」と共に履修することを強く推奨する。									
⑤ 評価Aに対応する具体的な学習到達目標の目安									
<p>(i) 企業会計（特に財務会計）のシステムと基本原則を理解し、説明できる。</p> <p>(ii) 企業の資金調達から仕入・生産・販売活動（営業循環）と会計の関わりを理解し、説明できる。</p> <p>(iii)</p>									
⑥ テキスト（教科書）									
桜井久勝・須田一幸（2021）『財務会計・入門（第14版）』有斐閣（改定版が出版された場合は、改訂版を使用する）									
⑦ 参考図書・指定図書									
中央経済社編『新版 会計法規集』中央経済社 桜井久勝『財務会計講義』中央経済社 いずれも最新版									

⑧ ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	S 到達目標を越えたレベルを達成している	A 到達目標を達成している	B 到達目標達成にはやや努力を要する	C 到達目標達成には努力を要する	D 到達目標達成には相当の努力を要する
(i) 企業会計のシステムと基本原則	企業会計のシステムと基本原則について、法令等を用いながら説明できる。	企業会計のシステムと基本原則について、自らの言葉で説明できる。	企業会計のシステムと基本原則の全体を教科書等に基づいて説明できる。	企業会計のシステムと基本原則について、教科書等に基づいてキーワードのみ説明できる	企業会計のシステムと基本原則について、教科書等に基づいてもキーワードの説明ができない
(ii) 企業の資金調達から仕入・生産・販売活動と会計の関わり	営業循環と会計の関わりを、具体例をもって説明できる。	営業循環と会計の関わりを自らの言葉で説明できる。	営業循環と会計の関わりについて、教科書等に基づいて説明できる。	営業循環と会計の関わりについて、教科書等に基づいてキーワードのみ説明できる。	営業循環と会計の関わりについて、教科書等に基づいてキーワードが説明できない。
(iii)					

⑨ 学習の到達目標（評価項目）とその評価の方法、フィードバックの方法								
学習到達目標（評価項目）	試験	小テスト	課題	レポート	発表・実技	授業への参加・意欲	その他	合計
総合評価割合	80%	20%						100%
(i) 企業会計のシステムと基本原則	20%	5%						25%
(ii) 企業の資金調達から仕入・生産・販売活動と会計の関わり	60%	15%						75%
(iii)								
フィードバックの方法	小テストについては採点后返却し解説等を行う。							

⑩ 担当教員からのメッセージ（昨年度授業アンケートを踏まえての気づき等）
適宜、国税専門官試験の問題等に触れながら、内容の理解と定着が行われるようにしたい。

⑪ 授業計画と学習課題			
回数	授業の内容	授業外の学習課題と時間（分） （※特別な持参物）	
1	ガイダンス	新聞の経済欄等で会計に関係がありそうな話題を読んでおく	60分
2	財務諸表とは	簿記入門で学んだ損益計算書、貸借対照表について復習しておく	60分
3	会計の種類と役割① （会計の種類、財務会計への法規制）	会計にはどのような種類があるのか、そして財務会計にはどのような規制があるのかをつかんでおく	60分
4	会計の種類と役割② （財務会計の役割）	企業の利害関係者とはどんな人達か。その利害関係者にはどのような情報要求があり、企業はそれにどう応えるのかを考えておく	60分
5	財務会計のシステムと基本原則①（複式簿記の構造、損益計算の方法）	1年生で学んだ簿記入門の内容、特に仕訳から決算までの流れを簡単に復習しておく	60分
6	財務会計のシステムと基本原則②（会計基準）	『会計法規集』などで「企業会計原則」とはどんなものか調べておく	60分
7	企業の設立と資金調達① （株式会社の設立、資金調達）	株式会社の設立と資金調達がどのように行われるのかをつかんでおく	60分
8	企業の設立と資金調達② （社債）	社債とは何か、社債にはどのような種類があるのかを調べておく	60分
9	仕入・生産活動① （営業循環、商品の仕入）	営業循環とは何か、商品の仕入とその評価、買入債務について調べておく	60分
10	仕入・生産活動② （製品の製造原価、人件費）	原価計算とは何か、人件費にはどのような種類があるのかを調べておく	60分
11	販売活動① （売上の認識・測定、売上原価の計算）	収益はいつ認識し、どのような測定するのか、売上原価の計算はどのように行うのかを調べておく。	60分
12	販売活動② （売上代金の回収、棚卸資産の期末評価）	売上代金の回収方法、棚卸減耗費、評価損について調べておく	60分
13	設備投資と研究開発① （固定資産、減価償却）	固定資産の種類とその償却方法について調べておく	60分
14	設備投資と研究開発② （減損、研究開発活動）	固定資産の減損とは何か、研究開発費はどのように会計処理すべきかについて調べておく	60分
15	まとめ	前期に学んだ内容についてキーワードを中心に振り返っておく	60分

⑫ アクティブラーニングについて

知識定着・確認型 AL を採用する。進度に応じて、国税専門官の「会計学」過去問などを小テストとして実施する。

※以下は該当者のみ記載する。

⑬ 実務経験のある教員による授業科目

実務経験の概要

実務経験と授業科目との関連性